

0001

5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：基礎

短期予報で地上天気図と500hPa天気図を併用する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．地上の気圧配置と上空のトラフ・リッジを対応させ、擾乱の立体構造を把握するため。
- イ．地上天気図だけで上空の全構造が完全に分かるため。
- ウ．500hPa図は地上の降水量を直接観測するため。
- エ．両資料は同じ高度を表しているため。

答え・解説

正答：ア

ア：地上低気圧の発達や前線活動は上空のトラフ・寒気との関係で理解しやすい。
イ：上空場は別資料で確認する必要がある。
ウ：中層の高度・気温等を示す。
エ：地上と中層で異なる。
総合解説：予報では単一高度の資料だけでなく、鉛直方向の対応関係を見ることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0002

5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：基礎

短期予報で850hPa気温・風を重視する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．成層圏のオゾン分布だけを調べるため。
- イ．下層の暖気・寒気移流や気団の性質を把握するため。
- ウ．海底水温を直接観測するため。
- エ．地上視程だけを求めるため。

答え・解説

正答：イ

ア：850hPaは対流圏下層である。
イ：850hPaは地表摩擦の影響が比較的小さく、下層気団の温度分布や移流を把握しやすい。
ウ：高層気象資料である。
エ：主用途ではない。
総合解説：下層温度場と風場の組合せは、前線・降雪・気温予報の基礎となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0003 5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：基礎

300hPa付近の予報資料で特に確認したいものとして最も適切なのはどれか。

- ア．地上気温の日較差だけ。
- イ．地表面の積雪深だけ。
- ウ．ジェット気流や上層の強風軸。
- エ．海面水温だけ。

答え・解説 正答：ウ

ア：上層風の解析が主である。
イ：上層資料ではない。
ウ：300hPa付近は対流圏上部で、ジェット気流の位置や蛇行を把握しやすい。
エ：海洋資料ではない。
総合解説：上層ジェットは低気圧発達や前線帯の位置と関係する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0004 5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：標準

急速に発達する低気圧を解析するとき、観測時刻の異なる資料を組み合わせる際の最も適切な注意点はどれか。

- ア．時刻が違ってても同時刻として扱ってよい。
- イ．古い資料ほど必ず精度が高い。
- ウ．時刻情報は予報資料の解釈に不要である。
- エ．各資料の時刻差を確認し、現象の移動・発達を考慮して比較する。

答え・解説 正答：エ

ア：誤った位置関係を生む。
イ：最新資料を重視する。
ウ：重要なメタデータである。
エ：急速変化する現象では数時間のずれでも構造が大きく変わる。
総合解説：予報資料は対象時刻・初期時刻・予報時間を区別して扱う必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0005 5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：標準

5日後の低気圧進路に複数シナリオがある場合、最も適切な資料利用はどれか。

- ア．決定論モデルだけでなくアンサンブル予報のばらつきも確認する。
- イ．最も強い1メンバーだけを採用する。
- ウ．予報時間が長いほど単一予報だけで十分である。
- エ．実況観測だけで5日後を決める。

答え・解説 正答：ア

ア：数日先は初期値誤差が成長するため、複数メンバーから不確実性を把握することが重要である。
イ：分布全体を見るべきである。
ウ：不確実性が増える。
エ：数値予報が必要である。
総合解説：中期予報では予測シナリオの幅を含めて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0006 5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：標準

同じ時刻について解析図と12時間前初期値の12時間予報図がある。実況に最も近い大気状態を確認するにはどちらを優先すべきか。

- ア．12時間予報図
- イ．解析図
- ウ．どちらも必ず完全一致する。
- エ．時刻が同じなら区別は不要である。

答え・解説 正答：イ

ア：観測で補正されていない予報値である。
イ：解析図は当該時刻までの観測を同化して作られるため、過去予報より実況に近い。
ウ：予報誤差がある。
エ：作成過程が異なる。
総合解説：予報検討ではまず最新解析で初期状態を確認し、その後の予報変化を見る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0007

5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：標準

GSMとMSMで24時間後の前線位置が大きく異なる場合、最も適切な解釈はどれか。

- ア．必ずMSMだけが正しい。
- イ．必ずGSMだけが正しい。
- ウ．前線位置の予測不確実性が大きい可能性を考え、実況・他資料・更新傾向を確認する。
- エ．差がある資料は全て無視する。

答え・解説

正答：ウ

ア：解像度だけで正否は決まらない。
イ：両モデルに誤差がある。
ウ：モデル間差は予測の不確実性を示す重要な情報になる。
エ：差そのものが情報である。
総合解説：複数モデルの一致・不一致を予報信頼度判断に用いる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0008

5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：標準

短期予報を開始する前に、最新レーダー・衛星・地上観測と数値予報初期場を比較する主な理由はどれか。

- ア．観測とモデルは必ず同じなので比較不要だから。
- イ．実況より未来予報の方が必ず正しいから。
- ウ．比較すると数値予報が実行できなくなるから。
- エ．モデル初期場が実況を適切に表現しているか確認し、その後の予報の信頼度を判断するため。

答え・解説

正答：エ

ア：初期値誤差があり得る。
イ：実況観測は現状把握の基準である。
ウ：むしろ評価に必要である。
エ：初期状態のずれは短時間予報に直接影響する。
総合解説：初期場で現象を捉えていない場合、その後の短期予報は慎重に扱う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0009 5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：応用

同じモデルの最新3回の予報で、低気圧の進路が回を追うごとに北へ修正されている。最も適切な利用法はどれか。

- ア．最新予報だけでなくラン間の修正傾向を確認し、進路予測の安定性を評価する。
- イ．最初の予報だけを固定して使う。
- ウ．予報が変わるほど必ず精度が高いと断定する。
- エ．ラン間比較には意味がない。

答え・解説 正答：ア

- ア：予報の一貫性や修正傾向は信頼度判断の材料となる。
 - イ：新しい観測を反映した更新を無視している。
 - ウ：変化は不確実性の大きさも示す。
 - エ：重要な予報診断手法である。
- 総合解説：予報の安定性を見ることで、単一時刻の結果だけでは分からない不確実性を評価できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0010 5-1 短期・中期予報 > 総観場・予報資料の利用 | 難易度：応用

日本付近に上空寒気を伴う500hPaトラフが接近し、850hPaでは暖湿気流入が強まる予想である。最も適切な短期予報上の着眼点はどれか。

- ア．全国で必ず終日快晴になること。
- イ．大気が不安定化し、局地的な雷雨・強雨の可能性が高まること。
- ウ．風が完全に弱まること。
- エ．海面水温だけで全て決まること。

答え・解説 正答：イ

- ア：対流発達に有利な環境である。
 - イ：上空寒気と下層暖湿気の組合せは対流不安定を強める。
 - ウ：大気不安定と風弱化は直結しない。
 - エ：大規模場と下層水蒸気も重要である。
- 総合解説：総観場から局地現象の発生環境を予測することが短期予報の基本である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0011 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：基礎

発達中の温帯低気圧で典型的な上空と地上の位置関係として最も適切なものはどれか。

- ア．500hPaトラフが常に地上低気圧の東側にある。
- イ．上空トラフが存在しない。
- ウ．500hPaトラフが地上低気圧の西側に位置する。
- エ．地上低気圧と上空場は無関係である。

答え・解説 正答：ウ

ア：発達期の典型とは逆である。
イ：発達機構と関係する。
ウ：発達期には擾乱軸が高度とともに西へ傾くことが多い。
エ：密接に関係する。
総合解説：低気圧の発達・衰弱は上層擾乱との位相関係で判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0012 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：基礎

地上前線の予想位置を検討するとき、850hPaの温度傾度帯を確認する主な理由はどれか。

- ア．前線は上空の温度分布と無関係だから。
- イ．850hPaは地表面の積雪だけを表すから。
- ウ．温度傾度が強い場所は必ず高気圧中心だから。
- エ．前線は異なる気団の境界であり、下層の強い温度傾度帯と対応しやすいため。

答え・解説 正答：エ

ア：温度傾度と関係する。
イ：下層の気温・風を示す。
ウ：前線帯で強くなりやすい。
エ：地上前線を三次元的な気団境界として捉える。
総合解説：風向・温度・湿度の変化を合わせると前線位置を判断しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0013 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：基礎

寒冷前線が通過するときに一般にみられやすい変化として最も適切なものはどれか。

- ア．降水や突風の後、風向が変化し気温が低下する。
- イ．通過後に必ず気温が急上昇する。
- ウ．風向は絶対に変化しない。
- エ．降水は一切起こらない。

答え・解説 正答：ア

- ア：寒冷前線後面にはより冷たい空気が流入する。
 - イ：通常は寒気流入で低下する。
 - ウ：前線通過で変化しやすい。
 - エ：前線付近で降水が発生しやすい。
- 総合解説：実況の風・気温・気圧・降水変化から前線通過を把握できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0014 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：基礎

温暖前線に伴う降水域が地上前線より前方に広がりやすい主な理由は何か。

- ア．暖気が地表を急激に潜り込むため。
- イ．暖気が冷気の上を緩やかに滑昇し、前線面の前方上空で雲・降水が形成されるため。
- ウ．前線面が鉛直だから。
- エ．降水は地上前線後方にしか存在できないから。

答え・解説 正答：イ

- ア：冷気の上を滑昇する。
 - イ：温暖前線面は傾斜が緩く、層状雲・降水が広範囲に広がりやすい。
 - ウ：一般に緩やかに傾斜する。
 - エ：前方にも広く分布する。
- 総合解説：前線種別により雲・降水域の空間配置が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0015 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：標準

温帯低気圧が成熟して寒冷前線が温暖前線に追いつくときに形成される前線はどれか。

- ア．仕様・基準値の候補として「停滞前線」を選ぶ。
- イ．資料上の代表値を「乾燥線」とみなす。
- ウ．該当する数値は「閉塞前線」であると判断する。
- エ．この条件に対応する値を「海風前線」とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：前線移動が小さい状態である。
 - イ：異なる概念である。
 - ウ：寒冷前線が温暖前線へ追いつき、暖域が地表から持ち上げられる。
 - エ：局地循環による境界である。
- 総合解説：閉塞は低気圧の成熟・衰弱段階と関係する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0016 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：標準

台風の進路予報で太平洋高気圧の張り出しを重視する主な理由はどれか。

- ア．太平洋高気圧が台風の中心気圧を直接固定するから。
- イ．台風は高気圧の中心へ必ず直進するから。
- ウ．台風進路は海面水温だけで決まるから。
- エ．台風が周囲の大規模な流れに流されるため、高気圧縁辺の風が操舵流として働くから。

答え・解説 正答：エ

- ア：進路への主作用は周囲の流れである。
 - イ：一般に縁辺を進む。
 - ウ：操舵流が重要である。
 - エ：台風自身の運動だけでなく、周囲の大規模循環が進路を決める。
- 総合解説：高気圧の張り出しや偏西風の位置変化で進路が大きく変わり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0017 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：標準

台風が陸上へ進んだ後に弱まりやすい主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．暖かい海面からの熱・水蒸気供給が減り、地表摩擦も大きくなるため。
- イ．陸上では気圧が存在しないため。
- ウ．陸上ではコリオリ力が消えるため。
- エ．台風は海面水温と無関係だから。

答え・解説 正答：ア

- ア：台風のエネルギー源である海洋からの供給が絶たれる。
 - イ：気圧は存在する。
 - ウ：消えない。
 - エ：強度維持に重要である。
- 総合解説：上陸後も暴風・大雨は続くことがあるため、中心気圧だけで危険度を判断しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0018 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：標準

台風が中緯度へ進み温帯低気圧化するとき、最も適切な説明はどれか。

- ア．必ず消滅して風も雨もなくなる。
- イ．暖気核中心の対称構造から、前線を伴う傾圧的で非対称な構造へ変化する。
- ウ．前線を失い完全に対称になる。
- エ．海面水温だけが変わり大気構造は変わらない。

答え・解説 正答：イ

- ア：再発達する場合もある。
 - イ：温帯低気圧化は単なる弱体化ではなく構造変化である。
 - ウ：逆に前線性が強まる。
 - エ：構造が大きく変わる。
- 総合解説：温帯低気圧化後も強風域拡大や再発達に注意が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0019 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：標準

台風の予報円が時間とともに大きくなる主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．台風の実際の大きさが必ず同じ割合で拡大するため。
- イ．予報円は暴風域の大きさそのものだから。
- ウ．予報時間が長いほど進路予測の不確実性が増えるため。
- エ．台風が弱いほど必ず予報円が0になるため。

答え・解説 正答：ウ

- ア：予報円は中心位置の不確実性を表す。
 - イ：意味が異なる。
 - ウ：初期値・モデル誤差が時間とともに増幅する。
 - エ：不確実性は残る。
- 総合解説：中心線だけでなく予報円全体を見て進路リスクを評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0020 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：標準

停滞前線付近に南から暖湿気が持続的に流入するとき、最も警戒すべき現象はどれか。

- ア．必ず降水が完全に止む。
- イ．大気が必ず強く乾燥する。
- ウ．地上風が常に無風になる。
- エ．同じ地域で雨雲が繰り返し発生・流入する長時間の大雨。

答え・解説 正答：エ

- ア：湿潤供給が続けば降水が持続しやすい。
 - イ：暖湿気流入と逆である。
 - ウ：そのような条件ではない。
 - エ：前線の停滞と持続的な水蒸気供給は大雨の重要な環境条件である。
- 総合解説：前線位置だけでなく水蒸気輸送の持続性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0021 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：応用

低気圧中心の予報位置が実況より100km南へずれた場合、最も起こり得る影響はどれか。

- ア．前線・降水域・風向風速の予報位置も系統的にずれ、地点予報が大きく外れる可能性がある。
- イ．低気圧中心位置は他の予報要素に影響しない。
- ウ．100kmずれても全地点の天気は必ず同じ。
- エ．気温予報だけが影響し、風と雨は影響しない。

答え・解説 正答：ア

ア：低気圧は周辺の前線・風・降水構造と一体なので位置誤差が複数要素へ波及する。
イ：周辺場と密接に関係する。
ウ：前線通過時刻等が変わる。
エ：複数要素に影響する。
総合解説：予報誤差を要素別に見るだけでなく、擾乱位置のずれとして理解することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0022 5-1 短期・中期予報 > 低気圧・前線・台風の予報 | 難易度：応用

台風進路で、あるモデル群は本州接近、別のモデル群は東海上を進む予想となっている。最も適切な対応はどれか。

- ア．最も都合のよい進路だけを採用する。
- イ．両シナリオの可能性を認識し、アンサンブル分布と最新実況に基づいて更新ごとに評価する。
- ウ．平均進路だけを確定進路とする。
- エ．モデル間差がある時は台風が消滅すると判断する。

答え・解説 正答：イ

ア：客観的根拠がない。
イ：進路分岐は大きな不確実性を示すため、単一シナリオへ早期に固定しない。
ウ：二峰性分布では平均が代表しない場合がある。
エ：不確実性を示すだけである。
総合解説：重大現象では低確率シナリオも影響度と合わせて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0023 5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：基礎

数値予報で雲量が多いが降水量がほぼ0の地域について、最も適切な予報判断はどれか。

- ア．雲量が多ければ必ず大雨になる。
- イ．降水が0なら必ず快晴である。
- ウ．曇りとなる可能性は高いが、降水を伴うとは限らない。
- エ．雲量は天気予報に利用できない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：雲と降水は一對一ではない。
 - イ：非降水雲が存在する。
 - ウ：雲量と降水は別の予報要素であり、多雲でも無降水の場合がある。
 - エ：重要な基礎資料である。
- 総合解説：天気判定では雲量、降水、日照等を総合して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0024 5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：基礎

山越え気流が強まる予想のとき、風下側で注意すべき現象として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず無風になる。
- イ．海面水温だけが低下する。
- ウ．上空風が強くても地上風には一切影響しない。
- エ．地形による局地的な強風やフェーン。

答え・解説 正答：エ

- ア：地形で強風となる場合がある。
 - イ：主現象ではない。
 - ウ：地形を介して影響する。
 - エ：山地は気流を加速・下降させ、風下側に強風や昇温をもたらすことがある。
- 総合解説：風予報ではモデル格子の平均風だけでなく地形効果も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0025 5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：標準

夜間に晴れて風が弱く、乾燥しているときに最低気温が下がりやすい主な理由はどれか。

- ア．地表面からの放射冷却が強まり、乱流混合も弱いから。
- イ．雲が多いほど赤外放射が宇宙へ逃げやすいから。
- ウ．強風ほど地表だけが極端に冷えるから。
- エ．乾燥すると必ず日中だけ冷えるから。

答え・解説 正答：ア

ア：雲が少なく弱風の夜は地表付近が冷えやすい。
イ：雲は下向き赤外放射を増やし冷却を抑える。
ウ：強風は混合を強め冷え込みを弱めやすい。
エ：夜間放射冷却にも関係する。
総合解説：最低気温予報では雲量・風速・地表状態が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0026 5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：標準

晴れた夏の日中、沿岸部で海風が強まると内陸より気温上昇が抑えられることがある主な理由はどれか。

- ア．海風は常に暖気を運ぶから。
- イ．比較的冷たい海上の空気が陸上へ流入するため。
- ウ．海風は気温に一切影響しない。
- エ．海風が吹くと日射が必ず0になる。

答え・解説 正答：イ

ア：夏の日中は海上の方が相対的に低温なことが多い。
イ：海陸の熱的差により海風が形成され、沿岸の気温を下げる。
ウ：熱輸送を伴う。
エ：日射とは別である。
総合解説：地点気温予報では大規模場に加えて局地循環を考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0027 5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：標準

気温が0 前後で湿った雪が降り始めたとき、気温変化の予測で考慮すべき効果として最も適切なものはどれか。

- ア．降雪は必ず気温を上げる。
- イ．相変化は気温に影響しない。
- ウ．融解・蒸発による潜熱消費で気温が下がる可能性。
- エ．雪は水蒸気を含まないため。

答え・解説 正答：ウ

- ア：潜熱効果で低下する場合がある。
 - イ：潜熱交換がある。
 - ウ：降水粒子の融解や蒸発は周囲から熱を奪う。
 - エ：相変化が起こる。
- 総合解説：雨雪判別や積雪予報では湿球温度に近づく効果も重要になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0028 5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：標準

上空の850hPa付近に強風があるが、夜間に強い逆転層が形成されている。地上風について最も適切な判断はどれか。

- ア．上空風と地上風は常に同じ。
- イ．逆転層ほど乱流混合が必ず強い。
- ウ．地上風は上空風と無関係なので予測不能。
- エ．上空強風がそのまま地上へ混合されにくく、地上風は弱い可能性がある。

答え・解説 正答：エ

- ア：境界層安定度により異なる。
 - イ：一般に抑制される。
 - ウ：安定度を考慮して判断できる。
 - エ：安定な逆転層は鉛直混合を抑える。
- 総合解説：昼間に混合が深まると上空の強風が地上へ降りてくる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0029

5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：応用

モデルが昼間の雲量を実際より多く予測した場合、他条件が同じなら最高気温予報にどのような誤差が出やすいか。

- ア．日射を弱く見積もるため、最高気温を低めに予測しやすい。
- イ．最高気温を必ず高めにする。
- ウ．気温予報には全く影響しない。
- エ．雲量が多いほど地表日射が必ず増える。

答え・解説

正答：ア

ア：雲量は地表面への短波放射を左右し、気温予報へ影響する。
イ：日射不足なら逆である。
ウ：放射収支を通じて影響する。
エ：一般に減少する。
総合解説：予報要素間の物理的連鎖を理解すると誤差診断がしやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0030

5-1 短期・中期予報 > 天気・風・気温の予報 | 難易度：応用

山間の観測地点の標高がモデル格子地形より500m高い場合、モデル気温をそのまま地点予報へ使うことが不適切な理由はどれか。

- ア．標高は気温に影響しない。
- イ．標高差による気温差があり、地点特性を補正する必要があるため。
- ウ．モデル格子地形は必ず実地点と完全一致する。
- エ．地点予報では数値予報を利用してはいけない。

答え・解説

正答：イ

ア：一般に高度とともに気温は低下する。
イ：モデル格子は地形を平均化しており、実地点との高度差が大きいことがある。
ウ：平均化される。
エ：補正して利用する。
総合解説：ガイダンス等を用いてモデルの地点誤差を補正することが有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0031

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：基礎

メソスケール解析で主に対象とする現象として最も適切なものはどれか。

- ア．全球規模の大気大循環だけ。
- イ．分子運動だけ。
- ウ．前線上の対流系、海陸風、局地的大雨など、総観規模より小さい現象。
- エ．数十年平均の気候だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：より大きなスケールである。
イ：小さすぎるスケールである。
ウ：メソスケール現象は数km～数百km程度の構造をもち、局地天気へ大きく影響する。
エ：時間・空間スケールが異なる。
総合解説：局地大雨や突風の予報には総観場に加えてメソスケール解析が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0032

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：基礎

地上風観測で異なる方向からの風が一つの帯へ集まっているとき、最も疑うべきものはどれか。

- ア．発散場
- イ．完全な無風帯
- ウ．上層高気圧中心だけ
- エ．収束線

答え・解説

正答：エ

ア：風が広がる場である。
イ：風が集まっているので異なる。
ウ：地上風収束の直接説明ではない。
エ：空気が水平に集まる領域では上昇流が生じやすく、雲・降水発達のきっかけになる。
総合解説：アメダス等の風向風速分布はメソスケール境界の把握に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0033

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：基礎

シアラインの説明として最も適切なものはどれか。

- ア．風向や風速が線状に急変する境界。
- イ．気温だけが一定になる線。
- ウ．海面水温の等温線。
- エ．必ず高気圧中心を通る線。

答え・解説

正答：ア

ア：風の水平シアが大きい線状領域は対流発生・組織化と関係する。
イ：風の変化が本質である。
ウ：風場の境界ではない。
エ：そのような定義ではない。
総合解説：収束線とシアラインは重なる場合もあるが概念は同一ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0034

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：標準

局地的大雨の可能性を評価するとき、下層の暖湿気流入を重視する主な理由はどれか。

- ア．暖湿気は雲形成を必ず抑えるため。
- イ．対流の水蒸気・熱エネルギー供給源となり、強い上昇流・降水を支えるため。
- ウ．水蒸気量は降水量と無関係である。
- エ．下層風は局地大雨に影響しない。

答え・解説

正答：イ

ア：逆に対流を支える。
イ：強い対流には下層の十分な水蒸気と不安定度が重要である。
ウ：重要な要因である。
エ：水蒸気輸送を担う。
総合解説：収束・地形上昇・上空寒気と組み合わせると対流発達が強まりやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0035

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：標準

湿った風が山地へ直交して吹き込むとき、風上側で対流雲が発生しやすい主な理由はどれか。

- ア．山地では空気が必ず下降するため。
- イ．地形は大気運動に一切影響しない。
- ウ．空気が地形に沿って強制的に持ち上げられ、飽和・凝結しやすくなるため。
- エ．湿った空気は上昇しても凝結しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：風上側では上昇しやすい。
イ：強く影響する。
ウ：地形上昇は対流開始の持ち上げ機構となる。
エ：冷却して飽和すれば凝結する。
総合解説：地形と下層風向の組合せは局地降水予報で重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0036

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：標準

晴れた夏の日中に沿岸から内陸へ進む風向急変帯と積雲列がみられた。最も考えやすいものはどれか。

- ア．温暖前線
- イ．寒冷前線
- ウ．対流圏界面
- エ．海風前線

答え・解説

正答：エ

ア：総観規模の前線である。
イ：局地的な海陸風境界とは異なる。
ウ：高度境界であり地上風向急変帯ではない。
エ：海風と内陸側の空気との境界で収束が起こり、積雲が発達することがある。
総合解説：海風前線同士や山風との収束で局地雷雨が強まる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0037 5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：標準

レーダーで線状の強雨域が数時間ほぼ同じ地域を通過し続けている。最も重要な解析観点はどれか。

- ア．個々のセルの移動方向と、新しいセルが発生する位置の両方を確認する。
- イ．強雨セルの瞬間位置だけ見れば十分。
- ウ．新しいセルの発生位置は降水量に影響しない。
- エ．レーダー動画は利用しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：対流セルが移動しても上流側で次々発生すると降水帯全体は停滞し得る。
 - イ：発生・移動の繰り返しが重要である。
 - ウ：長時間大雨に直結する。
 - エ：時間変化把握に有効である。
- 総合解説：大雨の継続性は降水セルの移動と再生産の両方で決まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0038 5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：標準

積乱雲通過後に気温が急低下し、風向が急変、気圧が上昇した。この現象として最も適切なのはどれか。

- ア．暖気移流だけ
- イ．積乱雲から広がる冷気外出流。
- ウ．放射冷却だけ
- エ．海面水温上昇

答え・解説 正答：イ

- ア：気温急低下と合わない。
 - イ：下降流で冷やされた空気が地表面へ広がり、ガストフロントを形成する。
 - ウ：急激な風向変化を説明しにくい。
 - エ：地上急変の直接原因ではない。
- 総合解説：外出流境界は新たな積乱雲発生のかっかけになる場合もある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0039

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：応用

LFMが局地雷雨を実況より20km東に予測した。予報利用として最も適切な考え方はどれか。

- ア．20kmずれたのでモデル情報は全て無価値である。
- イ．予報位置だけが必ず正しく実況が誤りである。
- ウ．雷雨発生の環境は捉えている可能性があり、点位置を確定せず周辺領域も含めてリスクを評価する。
- エ．局地雷雨は位置誤差を持たない。

答え・解説

正答：ウ

ア：発生環境の情報は有用である。
イ：実況観測を基準に確認する。
ウ：小規模対流では位置誤差が数十kmでも起こり得る。
エ：予測不確実性が大きい。
総合解説：高解像度モデルはピンポイント確定予報ではなく発生可能領域として利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0040

5-2 局地・短時間予報 > メソスケール解析 | 難易度：応用

総観場では前線が離れているが、局地的に海風前線と山地風が収束し、下層が非常に湿っている。最も適切な予報判断はどれか。

- ア．総観前線がなければ積乱雲は絶対に発生しない。
- イ．海風前線は雲発生を抑制する。
- ウ．下層湿度は雷雨と無関係である。
- エ．総観前線がなくても局地収束により雷雨が発生する可能性がある。

答え・解説

正答：エ

ア：局地境界で発生し得る。
イ：収束で対流を促す場合がある。
ウ：水蒸気供給に重要である。
エ：局地对流はメソスケールの収束・地形・不安定度でも発生する。
総合解説：局地短時間予報では大規模環境と局地トリガーを分けて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0041

5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：基礎

2026年時点の降水短時間予報で、6時間先までの予報仕様として正しいものはどれか。

- ア．10分毎に発表し、1km格子で各1時間降水量を予報する。
- イ．1日1回、100km格子で予報する。
- ウ．1時間毎、5km格子だけで予報する。
- エ．5分毎、250m格子で30分先だけを予報する。

答え・解説

正答：ア

ア：気象庁は6時間先までを10分間隔更新・1km格子で提供している。
イ：現行仕様と異なる。
ウ：7～15時間先の仕様に近い。
エ：高解像度降水ナウキャストである。
総合解説：短時間先ほど高頻度・高解像度で提供される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0042

5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：基礎

降水短時間予報の7時間先から15時間先の仕様として正しいものはどれか。

- ア．5分毎に250m格子で予報する。
- イ．1時間毎に発表し、5km格子で各1時間降水量を予報する。
- ウ．10分毎に1km格子だけで15時間先まで同じ手法を使う。
- エ．月1回だけ発表する。

答え・解説

正答：イ

ア：高解像度降水ナウキャストである。
イ：7～15時間先はMSM・LFM等を統計処理して5km格子で予報する。
ウ：6時間先までとは手法が異なる。
エ：短時間予報として不適切である。
総合解説：6時間先までと7～15時間先では更新頻度・解像度・手法が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0043 5-2 局地・短時間予報＞降水短時間予報・ノウキャスト | 難易度：基礎

高解像度降水ノウキャストの5～30分先までの水平解像度として正しいものはどれか。

- ア．候補値として「5km」を採用する。
- イ．条件に対応する結果を「10km」とみなす。
- ウ．求める値は「250m」とであると判断する。
- エ．計算結果の候補を「約13km」とする。

答え・解説 正答：ウ

- ア：降水15時間予報の格子である。
 - イ：竜巻ノウキャストの格子である。
 - ウ：高解像度降水ノウキャストは30分先まで250m格子で予測する。
 - エ：GSMの格子間隔である。
- 総合解説：35～60分先は1km格子で予報される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0044 5-2 局地・短時間予報＞降水短時間予報・ノウキャスト | 難易度：基礎

高解像度降水ノウキャストが予報する最長時間として正しいものはどれか。

- ア．候補値として「6時間先」を採用する。
- イ．条件に対応する結果を「15時間先」とみなす。
- ウ．求める値は「7日先」とであると判断する。
- エ．計算結果の候補を「1時間先」とする。

答え・解説 正答：エ

- ア：降水短時間予報の前半である。
 - イ：降水短時間予報の最長である。
 - ウ：中期予報の時間尺度である。
 - エ：5～30分先は250m、35～60分先は1km格子で予報する。
- 総合解説：ノウキャストは目先の短時間現象に特化している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0045 5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：標準

6時間先までの降水短時間予報で、直前の降水分布を予測へ利用する基本的な考え方はどれか。

- ア．解析雨量から降水域の移動速度を求め、その移動と強弱変化を外挿する。
- イ．過去30年平均だけを使う。
- ウ．数値予報だけを使いレーダー実況を無視する。
- エ．降水域は移動しないと仮定する。

答え・解説 正答：ア

- ア：短時間側では実況降水域の追跡が重要な予測情報となる。
 - イ：実況降水分布を利用する。
 - ウ：実況外挿を中心に使う。
 - エ：移動速度を推定する。
- 総合解説：後半になるほど数値予報の情報も加味される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0046 5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：標準

降水短時間予報で予報時間が延びるほど数値予報の情報を重視する理由として最も適切なものはどれか。

- ア．数値予報は1時間以内しか使えないから。
- イ．実況降水域の単純外挿は時間とともに位置・発達誤差が大きくなり、新規発生も捉えにくいから。
- ウ．降水域は時間とともに必ず変化しなくなるから。
- エ．外挿の精度は時間とともに必ず上がるから。

答え・解説 正答：イ

- ア：逆である。
 - イ：目先は外挿が強いが、数時間先ではモデルの物理的発達予測が相対的に有用になる。
 - ウ：発生・消滅する。
 - エ：一般に低下する。
- 総合解説：短時間予報では外挿と数値予報の得意時間帯を融合する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0047 5-2 局地・短時間予報＞降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：標準

高解像度降水ナウキャストで利用される観測として最も適切なものはどれか。

- ア．海底地震計だけ。
- イ．衛星軌道情報だけ。
- ウ．気象レーダー、雨量計、ウィンドプロファイラ、ラジオゾンデなど。
- エ．過去の平年値だけ。

答え・解説 正答：ウ

- ア：降水予測の主要入力ではない。
 - イ：主要な降水解析入力ではない。
 - ウ：複数観測から降水域内部を立体的に解析して短時間予測する。
 - エ：リアルタイム観測を活用する。
- 総合解説：高頻度・高解像度観測が目先の降水予測精度を支える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0048 5-2 局地・短時間予報＞降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：標準

高解像度降水ナウキャストの発表間隔として正しいものはどれか。

- ア．仕様・基準値の候補として「1時間毎」を選ぶ。
- イ．資料上の代表値を「10分毎だけ」とみなす。
- ウ．該当する数値は「1日3回」であると判断する。
- エ．この条件に対応する値を「5分毎」とする。

答え・解説 正答：エ

- ア：降水15時間予報の更新に近い。
 - イ：通常の降水短時間予報や雷・竜巻ナウキャストの一部仕様と異なる。
 - ウ：府県天気予報の定時発表に近い。
 - エ：高解像度降水ナウキャストは5分間隔で更新される。
- 総合解説：急変する雨雲には常に最新情報を確認する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0049 5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：標準

降水短時間予報を利用する際の最も適切な注意点はどれか。

- ア．予報時間が先になるほど精度が低下しやすいため、最新の更新を繰り返し確認する。
- イ．一度見た予報は15時間先まで更新不要である。
- ウ．予報時間が長いほど必ず精度が高い。
- エ．ナウキャストは実況より常に優先される。

答え・解説 正答：ア

- ア：降水域の発達・消滅・位置誤差が時間とともに増える。
 - イ：最新情報を確認すべきである。
 - ウ：一般に逆である。
 - エ：実況も重要である。
- 総合解説：短時間現象ほど最新観測と最新予報を連続的に使うことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0050 5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：標準

30分後の局地強雨と12時間後の降水分布を調べたい。最も適切な資料の組合せはどれか。

- ア．両方とも高解像度降水ナウキャスト。
- イ．30分後は高解像度降水ナウキャスト、12時間後は降水15時間予報。
- ウ．両方とも雷ナウキャスト。
- エ．12時間後を実況レーダーだけで決める。

答え・解説 正答：イ

- ア：最長1時間先までである。
 - イ：予報対象時間に応じて高頻度外挿系と数値予報系を使い分ける。
 - ウ：降水量予測の資料ではない。
 - エ：将来予測が必要である。
- 総合解説：時間スケールに適した予報プロダクトを選ぶことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0051 5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：応用

現在ほとんど雨雲がない場所で30分後に積乱雲が急発達した場合、単純な降水域外挿で捉えにくい主な理由はどれか。

- ア．外挿は未来の全積乱雲を完全予測できる。
- イ．積乱雲は必ず既存雨雲からしか発生しない。
- ウ．移動させる元の降水域がなく、新規発生には大気不安定度や収束など発達過程の予測が必要だから。
- エ．不安定度や収束は対流発生と無関係である。

答え・解説 正答：ウ

ア：新規発生は難しい。
イ：晴天域から急発達することもある。
ウ：外挿は既存降水域の移動に強い一方、新規発生には限界がある。
エ：重要である。
総合解説：ナウキャストだけでなくLFM等の環境場や雷情報も併用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0052 5-2 局地・短時間予報 > 降水短時間予報・ナウキャスト | 難易度：応用

高解像度降水ナウキャストが3回連続して強雨域を東進予測したが、実況では毎回ほぼ停滞している。最も適切な対応はどれか。

- ア．過去予報が東進だったので実況を無視する。
- イ．予報が外れたら今後必ず西進すると決める。
- ウ．連続する予報と実況の比較には意味がない。
- エ．外挿速度のずれを認識し、最新実況を優先して停滞・再生成の可能性を再評価する。

答え・解説 正答：エ

ア：実況が現状の基準である。
イ：根拠がない。
ウ：誤差傾向把握に有用である。
エ：実際の運動と予報の系統的ずれを確認することで次の予報を適切に解釈できる。
総合解説：短時間予報は更新ごとの実績を見ながら利用するのが有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0053 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：基礎

雷ナウキャストの基本仕様として正しいものはどれか。

- ア．1km格子で雷活動度1～4を解析し、1時間先まで10分毎に予測する。
- イ．10km格子で発生確度1・2だけを示す。
- ウ．250m格子で降水強度だけを示す。
- エ．1週間先の雷を毎日1回予測する。

答え・解説 正答：ア

ア：気象庁は雷活動を1～4で表し、10分毎に更新する。
イ：竜巻ナウキャストである。
ウ：高解像度降水ナウキャストである。
エ：ナウキャストではない。
総合解説：活動度の違いと予報時間・更新頻度を理解する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0054 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：基礎

雷ナウキャストの活動度1として最も適切な説明はどれか。

- ア．すでに非常に激しい雷が多数発生している状態だけ。
- イ．現在雷放電を検知していなくても、雨雲が雷雲へ発達する可能性がある領域。
- ウ．雷の可能性が全くない領域。
- エ．竜巻発生確度2と同じ意味。

答え・解説 正答：イ

ア：活動度2～4に相当する。
イ：活動度1は今後1時間以内に雷が発生する可能性を示す早期段階である。
ウ：発生可能性がある。
エ：別プロダクトである。
総合解説：避難に時間がかかる場合は活動度1や雷注意報の段階から早めの対応が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0055 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：標準

雷ナウキャストで活動度2～4が表示された領域で最も適切な行動はどれか。

- ア．屋外の高い木の下で待機する。
- イ．活動度が出ているほど雷の可能性が低いと考える。
- ウ．すでに積乱雲が発生しており落雷の危険があるため、安全な建物内などへ避難する。
- エ．1時間後まで何も起こらないと考える。

答え・解説 正答：ウ

- ア：落雷時に危険である。
 - イ：逆である。
 - ウ：気象庁は活動度2～4ではいつ落雷があってもおかしくないとしている。
 - エ：現在も危険な状態である。
- 総合解説：ナウキャストは行動判断へ結びつけて利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0056 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：標準

竜巻発生確度ナウキャストの基本仕様として正しいものはどれか。

- ア．1km格子で活動度1～4を示す。
- イ．250m格子で降水量だけを示す。
- ウ．7日先の竜巻進路を予測する。
- エ．10km格子で発生確度1・2を示し、1時間先まで10分毎に予測する。

答え・解説 正答：エ

- ア：雷ナウキャストである。
 - イ：高解像度降水ナウキャストである。
 - ウ：そのような予報ではない。
 - エ：竜巻やダウンバースト等の激しい突風発生可能性を10km格子で示す。
- 総合解説：発生確度1・2では適中率と捕捉率の性質が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0057 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：標準

竜巻発生確度ナウキャストの発生確度2の特性として最も適切なものはどれか。

- ア．発生確度1より適中率が高いが、捕捉率は低く見逃しが多い。
- イ．発生確度1より適中率も捕捉率も必ず高い。
- ウ．適中率100％である。
- エ．発生確度2は雷だけを表す。

答え・解説 正答：ア

ア：現行解説では発生確度2の適中率は7～14％程度、捕捉率は50～70％程度である。
イ：捕捉率は1の方が高い。
ウ：空振りも多い。
エ：激しい突風の発生可能性である。
総合解説：絞り込みを強くと適中率は上がる一方、見逃しが増える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0058 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：標準

発生確度1を利用する利点として最も適切なものはどれか。

- ア．適中率が発生確度2より必ず高い。
- イ．発生確度2より広く捉えるため見逃しが少なく、捕捉率が高い。
- ウ．発表される範囲が必ず狭い。
- エ．竜巻発生を100％保証する。

答え・解説 正答：イ

ア：1～7％程度で2より低い。
イ：発生確度1以上の捕捉率は約80％で、早めの注意に向く。
ウ：広く出やすい。
エ：確率的情報である。
総合解説：利用目的に応じて高捕捉率と高適中率のどちらを重視するかが変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0059 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：応用

雷・竜巻ナウキャストに活動度や発生確度が表示されていない地域でも注意が必要な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．表示がない地域では気象現象が物理的に発生できない。
- イ．ナウキャストは100％完全だから。
- ウ．積乱雲が急発達するなど、予測できない事例や観測で捉えられない事例があるため。
- エ．雷監視システムは全ての雷を必ず検知する。

答え・解説 正答：ウ

ア：急発達する場合がある。
イ：不確実性がある。
ウ：ナウキャストにも見逃しがあり、現地の雷鳴・急な風・黒雲など実況兆候を無視できない。
エ：全てを捉えるわけではない。
総合解説：ナウキャストと現地実況、注意報等を組み合わせて安全行動を取る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0060 5-2 局地・短時間予報 > 雷・突風・局地現象 | 難易度：応用

高解像度降水ナウキャストで急激な強雨、雷ナウキャスト活動度3、竜巻発生確度2が同じ地域に重なった。最も適切な判断はどれか。

- ア．3資料が重なるほど危険度は低い。
- イ．降水だけに注意し雷・突風は無視する。
- ウ．発生確度2なら必ず竜巻が発生済みである。
- エ．発達した積乱雲による大雨・落雷・激しい突風の複合的危険が高い。

答え・解説 正答：エ

ア：逆である。
イ：複合災害を考えるべきである。
ウ：発生可能性が高まった情報である。
エ：異なる観測・予測指標が同じ強い対流を示しており、即時の安全確保が必要な状況である。
総合解説：局地現象では複数ナウキャストの整合性を利用すると危険度判断が強化される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0061

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：基礎

気象庁の1か月予報が対象とする期間として正しいものはどれか。

- ア．発表日の翌々日から向こう1か月。
- イ．発表日当日だけ。
- ウ．発表日の翌日から3日間だけ。
- エ．発表月の翌月から3か月。

答え・解説

正答：ア

ア：1か月予報は毎週木曜日に発表され、発表日の翌々日から1か月を対象とする。
イ：短すぎる。
ウ：短期予報の時間尺度である。
エ：3か月予報である。
総合解説：季節予報は日々の天気ではなく期間平均・合計の傾向を予測する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0062

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：基礎

2026年時点の1か月予報の定時発表として正しいものはどれか。

- ア．毎日14時30分。
- イ．毎週木曜日14時30分。
- ウ．毎月25日頃だけ。
- エ．年1回だけ。

答え・解説

正答：イ

ア：2週間気温予報は毎日だが1か月予報は週1回である。
イ：気象庁は1か月予報を毎週木曜日14時30分に発表している。
ウ：3か月予報に近い。
エ：定期的に毎週発表される。
総合解説：季節予報は更新頻度が種類ごとに異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0063

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：基礎

3か月予報の対象期間として最も適切なものはどれか。

- ア．発表日翌日から72時間。
- イ．発表日翌々日から1か月。
- ウ．発表月の翌月から3か月間。
- エ．必ず6月から8月だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：短期予報である。
イ：1か月予報である。
ウ：3か月予報は翌月からの3か月平均・合計などを予報する。
エ：それは暖候期予報の主対象である。
総合解説：月ごとの傾向と3か月全体の傾向の双方が示される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0064

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：基礎

3か月予報の定時発表時期として最も適切なものはどれか。

- ア．毎週木曜日14時30分。
- イ．毎日5分毎。
- ウ．毎年2月だけ。
- エ．原則として毎月25日以前の火曜日14時。

答え・解説

正答：エ

ア：1か月予報である。
イ：ナウキャストの時間尺度である。
ウ：暖候期予報の発表時期に近い。
エ：気象庁の季節予報スケジュールで定められている。
総合解説：実際の日付は年間発表カレンダーで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0065 5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：標準

暖候期予報が主に予報する季節と要素の組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．夏（6～8月）の平均気温・合計降水量など。
- イ．冬（12～2月）の降雪量だけ。
- ウ．翌日までの風・天気。
- エ．1時間先の雷活動度。

答え・解説 正答：ア

ア：暖候期予報は夏の天候傾向を対象とし、梅雨時期の降水量も扱う。
イ：寒候期予報の内容である。
ウ：短期予報である。
エ：雷ナウキャストである。
総合解説：暖候期予報は2月に発表され、その後の3か月予報等で最新情報を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0066 5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：標準

寒候期予報の主な対象期間として正しいものはどれか。

- ア．3月から5月。
- イ．冬の12月から2月。
- ウ．6月から8月。
- エ．9月だけ。

答え・解説 正答：イ

ア：春季である。
イ：寒候期予報は冬の平均気温・降水量・日本海側の降雪量などを予報する。
ウ：暖候期予報の夏である。
エ：発表時期であって対象期間ではない。
総合解説：寒候期予報は9月の3か月予報と同時期に発表される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0067 5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：標準

暖候期予報の定時発表時期として最も適切なものはどれか。

- ア．毎年9月25日頃。
- イ．毎週木曜日。
- ウ．原則として毎年2月25日以前の火曜日14時。
- エ．毎日10分毎。

答え・解説 正答：ウ

- ア：寒候期予報の発表時期である。
 - イ：1か月予報である。
 - ウ：暖候期予報は2月の3か月予報と同時に発表される。
 - エ：ナウキャストである。
- 総合解説：暖候期予報は長期見通しなので、春以降は最新の3か月・1か月予報で更新して利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0068 5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：標準

2026年度の寒候期予報はいつ発表予定か。

- ア．2026年2月24日14時。
- イ．毎週木曜日14時30分。
- ウ．2027年3月23日だけ。
- エ．2026年9月18日14時、3か月予報と同時。

答え・解説 正答：エ

- ア：暖候期予報の時期に近い。
 - イ：1か月予報の定時発表である。
 - ウ：3か月予報の日程の一つである。
 - エ：2026年度の公式発表カレンダーで9月18日と示されている。
- 総合解説：日付は年によって変わるため、実務では当該年度の公式カレンダーを確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0069

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：標準

1か月予報で『気温は高い確率50%』と発表された場合、最も適切な解釈はどれか。

- ア．対象期間の平均的な気温傾向が高温側となる可能性が相対的に大きい。
- イ．期間中の毎日が必ず平年より高温になる。
- ウ．50%の日にだけ高温となることを意味する。
- エ．最高気温が必ず50 になる。

答え・解説

正答：ア

ア：季節予報は期間平均の統計的傾向を確率で示す。
イ：日々の変動はある。
ウ：日数割合ではない。
エ：確率値と温度値を混同している。
総合解説：期間平均の予報と日々の天気予報を混同しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0070

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：標準

1か月予報で扱われる代表的な要素として最も適切なものはどれか。

- ア．1時間毎の竜巻発生確度だけ。
- イ．1か月平均気温、週別平均気温、1か月合計降水量、日照時間など。
- ウ．毎日の台風中心位置を1か月先まで確定的に示す。
- エ．地震の発生確率だけ。

答え・解説

正答：イ

ア：短時間予報である。
イ：気象庁は期間平均・合計の気候要素を予報する。
ウ：季節予報の対象ではない。
エ：気象予報ではない。
総合解説：季節予報の予報要素は種類ごとに異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0071

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：応用

2月の暖候期予報と5月の3か月予報で夏の見通しが変わった場合、夏の計画に用いる情報として最も適切なものはどれか。

- ア．2月の予報を固定し、その後の更新を無視する。
- イ．見通しが変わったら両方とも無効とする。
- ウ．より新しい観測と予測を反映した5月の3か月予報を重視し、暖候期予報も背景情報として参照する。
- エ．季節予報は一度発表すると変更されない。

答え・解説

正答：ウ

- ア：最新情報を利用すべきである。
 - イ：予測不確実性の変化を反映している。
 - ウ：季節予報は新しい初期値・海洋状態を反映して定期的に更新される。
 - エ：更新・再検討される。
- 総合解説：長期予報ほど最新情報への更新を継続して確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0072

5-3 長期予報 > 1か月・3か月・暖寒候期 | 難易度：応用

『3週間後の平均気温』『2か月後を含む3か月の降水傾向』『来冬全体の気温傾向』を知りたい。適切な資料の組合せはどれか。

- ア．すべて高解像度降水ナウキャスト。
- イ．すべて府県天気予報。
- ウ．来冬を雷ナウキャストで予測する。
- エ．3週間後は1か月予報、3か月の傾向は3か月予報、来冬全体は寒候期予報。

答え・解説

正答：エ

- ア：最長1時間先の資料である。
 - イ：明後日程度までの短期予報である。
 - ウ：時間スケールが不適切である。
 - エ：対象期間に対応する季節予報を選ぶ。
- 総合解説：時間スケールと予報対象要素を合わせて情報を選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0073

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：基礎

季節予報の『低い・平年並・高い』3階級の確率が20％・30％・50％と示された場合、最も適切な解釈はどれか。

- ア．高い階級となる可能性が最も大きい。低い・平年並となる可能性も残る。
- イ．高い階級になることが100％確定した。
- ウ．対象期間の50％の日だけ高温になる。
- エ．20 + 30 + 50が100なので予報に不確実性はない。

答え・解説

正答：ア

ア：3階級の確率分布全体が予報情報である。
イ：50％であり確定ではない。
ウ：日数割合ではない。
エ：各階級に可能性が分散している。
総合解説：最大確率だけでなく、他階級への確率配分も見ることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0074

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：基礎

気温の『平年偏差』の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．観測値を平年値で必ず割った比率。
- イ．観測・予測値から平年値を引いた差。
- ウ．最高気温と最低気温の差。
- エ．予報誤差の絶対値。

答え・解説

正答：イ

ア：気温は通常差で表す。
イ：正の偏差は平年より高温、負の偏差は平年より低温を示す。
ウ：日較差である。
エ：平年との比較である。
総合解説：大規模場の500hPa高度や850hPa気温も平年偏差で特徴を把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0075

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：基礎

1か月降水量が平年の120%だったという表現の意味として正しいものはどれか。

- ア．平年より120mm多かったことを必ず意味する。
- イ．平年の20%しか降らなかった。
- ウ．平年値の1.2倍の降水量だった。
- エ．気温が120 だった。

答え・解説

正答：ウ

ア：割合であり差の単位ではない。
イ：120%は1.2倍である。
ウ：降水量や日照時間は平年値に対する比率で示されることが多い。
エ：降水量の比である。
総合解説：偏差と比のどちらで表すかは気象要素により異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0076

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：標準

日本付近で500hPa高度が平年より高い正偏差となる予想が持続している。一般に示唆されるものとして最も適切なものはどれか。

- ア．必ず地上で大雨になる。
- イ．上空の低気圧性循環が強い。
- ウ．平年偏差は大規模場と無関係である。
- エ．上空の高気圧性循環が平年より強い、または張り出しやすい状態。

答え・解説

正答：エ

ア：高気圧性偏差だけで一意には決まらない。
イ：正偏差は一般に高気圧性である。
ウ：重要な診断量である。
エ：500hPa高度偏差は大規模なトラフ・リッジの強弱を把握する指標になる。
総合解説：季節予報では絶対高度より平年からの偏りを見ることが多い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0077

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：標準

日本付近の850hPa気温が広範囲で大きな正偏差と予測されている場合、季節予報上の意味として最も適切なのはどれか。

- ア．下層大気が平年より暖かく、地上気温も高温傾向となる可能性を支持する。
- イ．地上気温が必ず毎日同じ値になる。
- ウ．地上気温は必ず低温になる。
- エ．850hPa気温は季節予報に利用できない。

答え・解説

正答：ア

ア：850hPa気温偏差は地上の期間平均気温の背景場として有用である。
イ：日々の変動は残る。
ウ：一般的には逆方向を支持する。
エ：基礎資料として利用される。
総合解説：大規模な暖気・寒気偏差と地上の地域差を合わせて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0078

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：標準

1か月予報の基礎資料でアンサンブル平均が高温偏差でも、メンバーのばらつきが大きい場合の最も適切な解釈はどれか。

- ア．平均が正なら全メンバーが高温である。
- イ．高温が中心的シナリオでも不確実性が大きく、平年並や低温の可能性も相対的に残る。
- ウ．スプレッドは季節予報に無関係である。
- エ．平均が正なら確率100%で高温になる。

答え・解説

正答：イ

ア：ばらつきが大きければ異なるメンバーがある。
イ：平均だけでなくメンバー分布から確率を評価する必要がある。
ウ：不確実性の重要な情報である。
エ：確率予報ではない。
総合解説：長期予報では確率分布を中心に解釈する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0079

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：標準

季節予報で『平年並』の確率が最も高いときの解釈として最も適切なものはどれか。

- ア．毎日の気温が平年値と完全一致する。
- イ．異常気象が絶対に起こらない。
- ウ．対象期間の平均・合計値が平年の中央階級に入る可能性が最も大きい。
- エ．平年並確率が高いと予報精度が必ず低い。

答え・解説

正答：ウ

ア：期間平均の階級である。
イ：短期間の極端現象は起こり得る。
ウ：『平年並』は毎日が平年値と同じという意味ではない。
エ：確率の大きさだけで精度は決まらない。
総合解説：季節予報の階級は期間統計量に対して定義される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0080

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：標準

北半球500hPa高度偏差図で日本付近にリッジがある予想でも、各地域の降水量を一律に少ないと決められない主な理由はどれか。

- ア．500hPa高度は降水と全く関係しない。
- イ．地域差という概念が存在しない。
- ウ．リッジがあれば全球で無降水になる。
- エ．降水は前線位置、水蒸気輸送、台風、地形など複数要因に左右され、地域差が大きいから。

答え・解説

正答：エ

ア：大規模循環を通じて関係する。
イ：大きく存在する。
ウ：そのようなことはない。
エ：大規模場は背景条件であり、地域予報には他の場も必要である。
総合解説：長期予報でも複数の大気・海洋要因を統合する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0081

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：応用

気温3階級確率が33%・33%・34%の場合と10%・20%・70%の場合を比較した。最も適切な説明はどれか。

- ア．後者の方が高温側への確率の偏りが大きく、予報シグナルが明瞭である。
- イ．前者の方が高温を強く予測している。
- ウ．どちらも同じ予報情報量である。
- エ．70%は気温70℃を意味する。

答え・解説

正答：ア

ア：確率が特定階級へ集中するほど予測分布の偏りが明瞭になる。
イ：34%はほぼ均等である。
ウ：確率分布の集中度が異なる。
エ：確率値である。
総合解説：最大階級だけでなく他階級との差を見ると予報の明瞭さを判断しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0082

5-3 長期予報 > 確率表現・偏差・大規模場 | 難易度：応用

農作物が高温に弱く、『高い』階級の確率が70%と予報された。最も適切な利用方法はどれか。

- ア．70%なら被害が必ず発生するので全ての作業を停止する。
- イ．高温対策の費用と被害リスクを比較し、確率情報を使って早めの対策を検討する。
- ウ．100%でない限り何もしない。
- エ．確率情報は産業利用に使えない。

答え・解説

正答：イ

ア：確率は確定ではない。
イ：季節予報は確率に応じたリスク管理に利用できる。
ウ：低確率でも影響が大きければ対策価値がある。
エ：気候リスク管理へ利用できる。
総合解説：確率と損失・対策コストを組み合わせることで実務的な意思決定が可能になる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0083

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：基礎

気象庁のエルニーニョ監視指数に用いる主な監視海域はどれか。

- ア．日本海全域だけ。
- イ．北極海だけ。
- ウ．赤道太平洋東部のNINO.3海域（北緯5度～南緯5度、西経150度～90度）。
- エ．地中海だけ。

答え・解説

正答：ウ

ア：ENSO監視海域ではない。
イ：ENSOの主監視海域ではない。
ウ：気象庁はこの海域の海面水温偏差を監視指数として利用する。
エ：ENSOとは無関係である。
総合解説：ENSOは熱帯太平洋の海面水温と大気循環の結合変動である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0084

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：基礎

気象庁がエルニーニョ現象の発生と判断する基準として最も適切なものはどれか。

- ア．単月で+0.1 を超えれば必ず発生。
- イ．5か月移動平均が-0.5 以下で6か月続くこと。
- ウ．日本の平均気温が+0.5 になること。
- エ．NINO.3監視指数の5か月移動平均値が+0.5 以上の状態で6か月以上持続すること。

答え・解説

正答：エ

ア：基準値・持続期間が異なる。
イ：ラニーニャの基準である。
ウ：監視海域は熱帯太平洋である。
エ：現行の気象庁基準である。
総合解説：単月の海面水温偏差だけでENSO発生を判断しない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0085

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：標準

気象庁がラニーニャ現象の発生と判断する基準として正しいものはどれか。

- ア．NINO.3監視指数の5か月移動平均値が-0.5 以下の状態で6か月以上持続すること。
- イ．5か月移動平均が+0.5 以上で6か月持続。
- ウ．単月で0 を下回れば即発生。
- エ．日本近海の水温だけで判断する。

答え・解説

正答：ア

- ア：エルニーニョとは逆符号の海面水温偏差が持続する。
 - イ：エルニーニョの基準である。
 - ウ：持続基準が必要である。
 - エ：NINO.3海域を用いる。
- 総合解説：ENSO判定には海面水温偏差の大きさと持続性が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0086

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：標準

ENSO情報を日本の季節予報に利用できる主な理由はどれか。

- ア．ENSOは海水温だけ変え大気には影響しない。
- イ．熱帯太平洋の海面水温異常が対流活動と大気大循環を変え、遠隔地の天候にも影響するため。
- ウ．日本の天気は熱帯太平洋と完全に独立している。
- エ．ENSOが起ると日本の天気が毎回完全に同じになる。

答え・解説

正答：イ

- ア：大気海洋相互作用が本質である。
 - イ：ENSOは海洋だけの局地現象ではなく、全球規模の大気循環変動と結びつく。
 - ウ：テレコネクションがある。
 - エ：影響は統計的傾向であり他要因もある。
- 総合解説：ENSOは季節予報の予測可能性源の一つだが、決定論的な一対一対応ではない。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0087

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：標準

『エルニーニョ時には日本で特定の天候傾向が出やすい』という統計情報の利用として最も適切なものはどれか。

- ア．エルニーニョなら毎回100%同じ天候になる。
- イ．ENSO情報は季節予報に全く使えない。
- ウ．傾向が出る確率が変化する情報として利用し、個々の季節が必ず同じになるとは考えない。
- エ．ENSOだけで日々の天気を数か月先まで決められる。

答え・解説

正答：ウ

- ア：統計的傾向である。
 - イ：重要な予測因子である。
 - ウ：ENSOの影響は他の大気海洋変動にも左右される。
 - エ：日々の天気は予測できない。
- 総合解説：長期予報では複数要因を組み合わせで確率的に見通しを作る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0088

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：標準

2026年8月10日発表のエルニーニョ監視速報で示された実況・見通しとして正しいものはどれか。

- ア．ラニーニャ現象が確実に続くとされた。
- イ．ENSOは平常で見通しは発表されていない。
- ウ．監視速報は10年に1回しか発表されない。
- エ．2026年春からエルニーニョ現象が続いているとみられ、冬にかけて続く見込みとされた。

答え・解説

正答：エ

- ア：現行情報と逆である。
 - イ：エルニーニョ継続見込みが示されている。
 - ウ：毎月1回程度発表される。
 - エ：No.407では冬にかけてエルニーニョが続く見込み100%とされた。
- 総合解説：時点依存のENSO情報は最新号を確認して利用する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0089

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：応用

エルニーニョ監視速報の監視指数予測で70%の確率で入る範囲が広い場合、最も適切な解釈はどれか。
ア．将来の海面水温偏差の不確実性が大きく、ENSO強度の見通しに幅がある。
イ．70%範囲が広いほど予測が確定している。
ウ．範囲の幅は確率予報と無関係である。
エ．範囲内の全値が同時に実現する。

答え・解説

正答：ア

ア：予測範囲は大気海洋結合モデルのアンサンブル不確実性を示す。
イ：逆に不確実性が大きい。
ウ：不確実性の指標である。
エ：将来値がどこに入るかの確率範囲である。
総合解説：ENSO見通しも単一値ではなく確率分布として読む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0090

5-3 長期予報 > ENSO等の気候情報の利用 | 難易度：応用

ENSOは高温傾向を支持する一方、季節アンサンブルの日本付近850hPa気温偏差は平年並を示している。最も適切な予報判断はどれか。
ア．ENSOの統計傾向だけを必ず優先し他資料を捨てる。
イ．ENSOだけで結論を固定せず、最新の季節アンサンブル・大規模場・他の海洋変動を総合して確率を判断する。
ウ．季節アンサンブルだけが100%正しい。
エ．資料が異なれば季節予報は不可能である。

答え・解説

正答：イ

ア：複数情報を統合すべきである。
イ：ENSOは重要な因子だが、日本の季節天候を単独で決定するものではない。
ウ：これにも不確実性がある。
エ：相反情報を確率的に統合する。
総合解説：長期予報では複数の予測可能性源と不確実性を統合する力が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0091 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：基礎

土壌雨量指数が主に表すものとして最も適切なものはどれか。

ア．河川上流から下流へ流れる水量だけ。

イ．地表面に溜まる水だけ。

ウ．降った雨が土壌中にどれだけ蓄えられているかを数値化した、土砂災害危険度の指標。

エ．海面の潮位偏差。

答え・解説 正答：ウ

ア：それは流域雨量指数の考え方である。

イ：それは表面雨量指数に対応する。

ウ：土壌雨量指数はタンクモデルを用いて土壌中の雨水貯留を表し、土砂災害危険度の評価に使われる。

エ：高潮の指標であり土砂災害とは異なる。

総合解説：災害種別ごとに用いる指数が異なる点を区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0092 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：基礎

表面雨量指数が主に評価する災害リスクはどれか。

ア．斜面内部の深い土砂災害だけ。

イ．河川上流からの洪水だけ。

ウ．高潮による海面上昇だけ。

エ．短時間強雨による低地・市街地の浸水害。

答え・解説 正答：エ

ア：主に土壌雨量指数で評価する。

イ：流域雨量指数が主要指標である。

ウ：高潮は潮位予測で扱う。

エ：表面雨量指数は、降った雨が地表面にどれだけ溜まり流れやすいかを数値化し、浸水害危険度に用いる。

総合解説：都市部では地表被覆や排水特性の違いも危険度に関係する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0093 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：基礎

流域雨量指数の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．上流域に降った雨が河川へ流れ込み、下流地点の洪水危険度をどれだけ高めるかを表す指標。
- イ．地中に貯留した雨水だけを表す。
- ウ．地表面に一時的に溜まる雨水だけを表す。
- エ．海岸での波高だけを表す。

答え・解説 正答：ア

ア：流域雨量指数は流出・流下過程を考慮して洪水危険度を評価する。
イ：土壌雨量指数の説明である。
ウ：表面雨量指数の説明である。
エ：河川洪水とは無関係である。
総合解説：河川の洪水危険度は単純な地点雨量だけでなく上流全体の降雨を考慮する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0094 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：基礎

2026年5月29日以降の防災気象情報体系について正しいものはどれか。

- ア．従来の洪水警報・注意報は名称も運用も完全にそのまま継続している。
- イ．従来の市町村ごとの洪水警報・洪水注意報は廃止され、河川区分に応じて氾濫情報または大雨情報で扱う。
- ウ．全河川の洪水危険度は高潮警報で扱う。
- エ．河川氾濫に関する情報は廃止された。

答え・解説 正答：イ

ア：2026年5月29日から体系が変更された。
イ：洪水予報河川は河川ごとの氾濫情報、その他の河川は大雨情報の中で扱う体系へ整理された。
ウ：高潮とは別の災害である。
エ：むしろ警戒レベル対応へ整理された。
総合解説：現行制度では旧制度の名称をそのまま前提にしないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0095 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：標準

洪水予報河川で警戒レベル3相当の河川氾濫情報として発表される名称はどれか。

- ア．レベル3大雪警報
- イ．旧称の洪水警報を市町村ごとにそのまま発表する。
- ウ．レベル3氾濫警報
- エ．レベル3高潮警報

答え・解説 正答：ウ

ア：河川氾濫とは無関係である。
イ：旧市町村洪水警報は廃止された。
ウ：2026年の新体系では洪水予報河川に対してレベル3氾濫警報が用いられる。
エ：高潮災害の情報である。
総合解説：対象河川の区分によって同じ洪水リスクでも情報名が異なる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0096 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：標準

洪水予報河川以外の河川で外水氾濫の危険度が高まった場合、2026年の新体系では主にどの情報で扱うか。

- ア．必ず河川名付きのレベル3氾濫警報だけで扱う。
- イ．高潮情報で扱う。
- ウ．気象情報では扱わない。
- エ．市町村ごとの大雨に関する特別警報・危険警報・警報・注意報。

答え・解説 正答：エ

ア：これは洪水予報河川の体系である。
イ：海面上昇とは別の災害である。
ウ：現行制度で大雨情報に含めて扱う。
エ：洪水予報河川以外の外水氾濫は、大雨に関する情報に統合して扱う。
総合解説：大雨情報は浸水害に加えて洪水予報河川以外の外水氾濫も対象とする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0097 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：標準

現在の雨が弱くなっても土砂災害危険度が高いままとなることがある主な理由はどれか。

- ア．これまでの雨が土壌中に蓄積しており、斜面内部の水分量が高い状態が続くため。
- イ．雨が弱くなると土壌中の水が瞬時に全て消えるため。
- ウ．土砂災害は雨量と無関係だから。
- エ．土壌雨量指数は現在の1分雨量だけで決まるから。

答え・解説 正答：ア

- ア：土砂災害は瞬間雨量だけでなく先行降雨の蓄積に強く影響される。
 - イ：排水には時間がかかる。
 - ウ：雨水蓄積が重要な要因である。
 - エ：過去からの蓄積を表現する。
- 総合解説：降雨停止直後も土砂キキクル等を確認し、危険度が下がるまで警戒する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0098 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：標準

短時間強雨で下水道や側溝の排水能力を超え、河川氾濫前に市街地が浸水する現象として最も適切なのはどれか。

- ア．候補値として「外水氾濫」を採用する。
- イ．条件に対応する結果を「内水氾濫」とみなす。
- ウ．求める値は「高潮」とであると判断する。
- エ．計算結果の候補を「土石流」とする。

答え・解説 正答：イ

- ア：河川の水が堤防を越えるなどして氾濫する現象である。
 - イ：地表面に雨水が滞留し排水しきれず浸水する現象は内水氾濫に当たる。
 - ウ：海面上昇による浸水である。
 - エ：土砂災害の一種である。
- 総合解説：都市型浸水では短時間強雨と表面雨量指数の高まりに注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0099 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：標準

洪水キキクルで危険度判定に用いられる予測値の時間範囲として最も適切なのはどれか。

- ア．実況値だけで未来予測は使わない。
- イ．15日先までの予測値。
- ウ．実況値に加えて3時間先までの予測値。
- エ．1か月平均だけ。

答え・解説 正答：ウ

ア：予測値も利用する。
イ：洪水キキクルの時間尺度ではない。
ウ：洪水キキクルは流域雨量指数等の実況値と3時間先までの予測値を用いて危険度を判定する。
エ：短時間の洪水危険度を対象とする。
総合解説：洪水は上流降雨の影響が時間差で下流へ及ぶため、数時間先の危険度予測が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0100 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：標準

大雨時に崖沿いの住宅と低地の地下施設の両方の危険を評価したい。最も適切な情報の組合せはどれか。

- ア．両方とも波浪情報だけを見る。
- イ．両方とも台風予報円だけを見る。
- ウ．土砂・浸水の区別なく一つの雨量値だけで判断する。
- エ．崖沿いは土砂キキクル、低地の地下施設は浸水キキクルを重点的に確認する。

答え・解説 正答：エ

ア：海上の高波情報である。
イ：地点の大雨災害危険度は分らない。
ウ：災害発生機構が異なる。
エ：災害の種類によって危険度を表す指数・キキクルが異なる。
総合解説：自分のいる場所で想定される災害種別に合った危険度情報を見る必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0101 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：応用

自地点では雨がやんだが、上流域では大雨が続いている。河川洪水について最も適切な判断はどれか。
ア．下流では今後さらに流量が増える可能性があり、雨がやんだことだけで安全とは判断できない。
イ．自地点の雨がやめば河川水位は必ず直ちに低下する。
ウ．河川洪水は自地点の雨だけで決まる。
エ．上流雨量は下流洪水に影響しない。

答え・解説 正答：ア

ア：上流の雨水が河川を流下するまでに時間差がある。
イ：上流流入で上昇が続く場合がある。
ウ：流域全体の降雨が重要である。
エ：直接影響する。
総合解説：流域雨量指数はこの時間差を含む流出・流下過程を表現する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0102 5-4 気象災害・防災気象情報 > 大雨・洪水・土砂災害 | 難易度：応用

同じ地域で土砂キキクルが紫、浸水キキクルも紫、河川水位も上昇中である。最も適切な防災判断はどれか。
ア．一つの災害だけ対応し他は無視する。
イ．複数災害が同時に切迫しているため、災害種別ごとの安全な避難経路を考え、危険な場所から早急に離れる。
ウ．紫は危険度が低いので待機する。
エ．雨量が減るまで屋外で様子を見る。

答え・解説 正答：イ

ア：複合リスクを考慮すべきである。
イ：大雨時には土砂・浸水・洪水が重複し、避難経路そのものが危険になる場合がある。
ウ：紫は警戒レベル4相当の危険を示す。
エ：危険な場所から早めに離れるべき状況である。
総合解説：防災気象情報は情報名を覚えるだけでなく具体的な安全行動へ結びつけて利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0103 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：基礎

気象庁の予報用語で「非常に強い風」とされる平均風速の範囲はどれか。

- ア．5m/s以上10m/s未満
- イ．10m/s以上15m/s未満
- ウ．20m/s以上30m/s未満
- エ．30m/s以上40m/s未満だけ

答え・解説 正答：ウ

ア：この範囲ではない。
イ：「やや強い風」に相当する。
ウ：気象庁は平均風速20m/s以上30m/s未満を「非常に強い風」としている。
エ：30m/s以上は「猛烈な風」と表現する範囲に入る。
総合解説：風の強さの表現は定義された風速範囲に対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0104 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：基礎

気象庁の予報用語で「猛烈な風」の説明として最も適切なものはどれか。

- ア．平均風速10m/s以上15m/s未満だけ。
- イ．平均風速15m/s以上20m/s未満だけ。
- ウ．最大瞬間風速20m/s以上なら常に猛烈な風。
- エ．平均風速がおよそ30m/s以上、または最大瞬間風速50m/s以上の風。

答え・解説 正答：エ

ア：「やや強い風」である。
イ：「強い風」である。
ウ：基準が異なる。
エ：非常に危険な風の強さを表す用語である。
総合解説：暴風時は平均風速だけでなく瞬間的な突風にも注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0105 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：基礎

台風による高潮の主な発生要因の組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．気圧低下による吸い上げ効果と、強風による吹き寄せ効果。
- イ．海水温低下と降雪だけ。
- ウ．地震による海底変動だけ。
- エ．満潮だけで気象要因は不要。

答え・解説 正答：ア

- ア：高潮は低気圧による海面上昇と海岸方向への強風による海水の吹き寄せで発生する。
 - イ：高潮の主因ではない。
 - ウ：それは津波の主因である。
 - エ：満潮は危険を高めるが高潮の主因は気圧と風である。
- 総合解説：湾の形状や水深、天文潮位との重なりも高潮危険度に影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0106 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：標準

台風進路が少しずれるだけで高潮予想が大きく変わることがある主な理由はどれか。

- ア．高潮は風と無関係で気圧だけで決まるため。
- イ．海岸へ吹きつける風向・風速や台風中心との位置関係が変わり、吹き寄せ効果が大きく変化するため。
- ウ．台風進路が変わると天文潮位が消えるため。
- エ．どの進路でも高潮は同じ高さになるため。

答え・解説 正答：イ

- ア：風の吹き寄せ効果が大きい。
 - イ：高潮は進路に対して敏感で、湾や海岸への風の向きが重要である。
 - ウ：天文潮位は別に存在する。
 - エ：進路依存性が大きい。
- 総合解説：高潮防災では予想進路の幅を考慮し早めに安全確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0107 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：標準

沿岸付近の風が弱いのに高い波が続くことがある理由として最も適切なのはどれか。

- ア．風が弱い場所では波は必ず0になる。
- イ．高波は高潮と完全に同じ現象だから。
- ウ．遠方の強風域で発生したうねりが伝わってくるため。
- エ．うねりは海岸付近だけで発生する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：うねりが到達する。
イ：波浪と潮位上昇は異なる。
ウ：うねりは発生域を離れて長距離伝播するため、現地風が弱くても高波となることがある。
エ：遠方から伝わることもある。
総合解説：台風が遠くても沿岸で高いうねりとなる場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0108 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：標準

天気予報で用いる波の高さが主に対象とする「有義波高」の説明として正しいものはどれか。

- ア．最も高い1波だけの高さ。
- イ．全波の単純平均。
- ウ．海面の平均潮位。
- エ．一定時間に観測された波のうち高い方から1/3を取り、その波高を平均した値。

答え・解説 正答：エ

- ア：最大波高ではない。
イ：高い方から1/3の平均である。
ウ：波高ではなく潮位の概念である。
エ：有義波高は目視による波高に近い代表値で、実際にはこれを大きく上回る波も出現し得る。
総合解説：予報値より高い個々の波が来る可能性を考慮する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0109 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：標準

暴風雪で交通障害が急激に深刻化する主な理由として最も適切なものはどれか。

- ア．強風で雪が舞い上がり、視程障害や吹きだまりが発生するため。
- イ．風が強いほど視程は必ず改善する。
- ウ．雪が降らなくても吹きだまりは絶対に発生しない。
- エ．暴風雪は交通に影響しない。

答え・解説 正答：ア

- ア：降雪量だけでなく風による地吹雪・吹きだまりが交通リスクを高める。
 - イ：逆に悪化し得る。
 - ウ：積雪があれば地吹雪が起こり得る。
 - エ：重大な交通障害を引き起こす。
- 総合解説：大雪と暴風雪では主な危険要因が異なることを理解する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0110 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：標準

大雪特別警報が発表される状況として最も適切なものはどれか。

- ア．1cmの降雪が予想されるすべての場合。
- イ．数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合。
- ウ．降雪がなく強風だけの場合。
- エ．気温が0℃を下回っただけの場合。

答え・解説 正答：イ

- ア：特別警報の基準ではない。
 - イ：通常の大雪警報を大きく上回る重大な災害のおそれが著しく大きい場合に発表される。
 - ウ：暴風等の情報で扱う。
 - エ：大雪特別警報とは無関係である。
- 総合解説：特別警報は非常に重大な災害が起こるおそれが著しく大きい状況を示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0111 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：応用

高潮で潮位が高い時間帯に高波が重なった場合、沿岸部で危険が増す主な理由はどれか。

- ア．高潮が起こると波は必ず消える。
- イ．高波は潮位に関係なく陸地へ影響しない。
- ウ．高い海面の上に波が打ち寄せるため、越波や浸水が起こりやすくなる。
- エ．高潮と高波は全く同じ量なので二重評価になる。

答え・解説 正答：ウ

ア：同時発生し得る。
イ：高い潮位ほど越波しやすい。
ウ：高潮と高波は別現象だが同時に起こると沿岸浸水リスクが増大する。
エ：潮位上昇と波浪は異なる。
総合解説：沿岸防災では高潮・高波・暴風を複合的に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0112 5-4 気象災害・防災気象情報 > 暴風・高潮・高波・大雪 | 難易度：応用

大雪域の予想位置が50kmずれる可能性があるとき、交通機関の運用判断として最も適切なものはどれか。

- ア．中心線上だけ対策し周辺地域は無視する。
- イ．予想位置に不確実性があれば準備は不要。
- ウ．大雪は交通と無関係である。
- エ．予想中心線だけでなく幅を持った影響範囲を想定し、複数シナリオで除雪・運休準備を行う。

答え・解説 正答：エ

ア：位置誤差に弱い運用となる。
イ：むしろ幅をもって準備する。
ウ：重大な交通障害を起こし得る。
エ：狭い雪雲帯では位置誤差が交通影響の地域を大きく変えるため、不確実性を考慮する必要がある。
総合解説：影響が大きい現象ほど予報幅を考慮した事前対応が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0113

5-4 気象災害・防災気象情報＞警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：基礎

2026年5月29日からの新たな防災気象情報で、河川氾濫・大雨・土砂災害・高潮に関する情報の名称に警戒レベルの数字を付ける主な目的はどれか。

- ア．住民が避難行動との対応を直感的に理解しやすくするため。
- イ．情報の発表回数を必ず5回に固定するため。
- ウ．雨量を5mm単位で示すため。
- エ．すべての気象情報を同じ名称にするため。

答え・解説

正答：ア

ア：新体系では5段階の警戒レベルと情報名称を整合させ、防災行動につなげやすくした。
イ：発表回数ではなく危険度段階を示す。
ウ：数値は警戒レベルを表す。
エ：災害種別ごとの名称は維持される。
総合解説：情報名そのものから警戒レベル相当を把握できるよう整理された。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0114

5-4 気象災害・防災気象情報＞警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：基礎

2026年の新体系で、警戒レベル4相当の大雨に関する情報名として正しいものはどれか。

- ア．レベル4大雨注意報
- イ．レベル4大雨危険警報
- ウ．レベル4大雨特別警報
- エ．洪水警報

答え・解説

正答：イ

ア：注意報はレベル2である。
イ：警戒レベル4相当には「危険警報」という名称が新設された。
ウ：特別警報はレベル5である。
エ：旧市町村洪水警報は廃止された。
総合解説：レベル4相当情報が出た段階では危険な場所からの避難を強く意識する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0115

5-4 気象災害・防災気象情報 > 警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：標準

レベル5大雨特別警報やレベル5土砂災害特別警報が示す状況として最も適切なのはどれか。

- ア．これから避難準備を始めれば十分な段階。
- イ．災害の可能性が低い段階。
- ウ．災害が切迫または発生している可能性が極めて高く、命の危険から直ちに安全を確保すべき段階。
- エ．平常時の情報。

答え・解説

正答：ウ

ア：より早い段階で避難を終えることが重要である。
イ：最も危険な段階である。
ウ：レベル5は最上位の危険段階であり、警戒レベル4までの避難完了が原則である。
エ：特別警報は非常事態を示す。
総合解説：レベル5を待って避難を始めるのではなく、レベル4までの避難が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0116

5-4 気象災害・防災気象情報 > 警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：標準

キキクルで紫色「危険」が示された場所の解釈として最も適切なものはどれか。

- ア．危険度が最も低い。
- イ．レベル2相当の注意だけ。
- ウ．必ず災害発生済みを意味する。
- エ．警戒レベル4相当の危険度に達しており、危険な場所から避難が必要な段階。

答え・解説

正答：エ

ア：紫は高い危険度である。
イ：黄色がレベル2相当である。
ウ：災害切迫・発生は黒のレベル5相当で示される。
エ：キキクルの紫は「危険」で、レベル4相当の危険度を示す。
総合解説：色の意味を理解し、自治体の避難情報がなくても自ら避難判断に使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0117

5-4 気象災害・防災気象情報 > 警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：標準

キキクルで黒色「災害切迫」が表示された場合、最も適切な対応はどれか。

- ア．すでに安全な避難が困難な可能性もあるため、今いる場所で可能な最善の安全確保を直ちに行う。
- イ．通常の外出を続ける。
- ウ．黒が消えるまで川や崖を見に行く。
- エ．避難準備だけ始める。

答え・解説

正答：ア

ア：黒は警戒レベル5相当で、災害が切迫している極めて危険な状況を示す。
イ：命の危険がある段階である。
ウ：極めて危険である。
エ：行動が遅すぎる段階である。
総合解説：黒になる前、紫の段階までに危険な場所から避難することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0118

5-4 気象災害・防災気象情報 > 警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：標準

2026年の新体系で新設された「大雨キキクル」の主な特徴はどれか。

- ア．土砂災害だけを表示する。
- イ．浸水キキクルと洪水キキクルの危険度を重ね合わせ、大雨による浸水・洪水危険度をまとめて確認できる。
- ウ．台風進路だけを表示する。
- エ．高潮の潮位だけを表示する。

答え・解説

正答：イ

ア：土砂キキクルが別にある。
イ：大雨キキクルは低地浸水と洪水予報河川以外の外水氾濫等の危険度把握を支援する。
ウ：大雨災害の危険度分布である。
エ：高潮とは別の情報である。
総合解説：複数の大雨災害リスクを面的に把握しやすくする目的で提供される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0119

5-4 気象災害・防災気象情報＞警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：応用

市町村にレベル3大雨警報が発表されたとき、キキクルも確認する主な理由はどれか。

- ア．警報が出るとキキクルは利用できなくなるため。
- イ．キキクルは警報と同じ市町村一色表示しかないため。
- ウ．市町村内のどこで危険度が高まっているかを、より細かな面的分布で確認できるため。
- エ．警報よりキキクルの方が常に法的に上位だから。

答え・解説

正答：ウ

- ア：むしろ併用する。
 - イ：より細かな分布を示す。
 - ウ：警報は区域単位、キキクルは1km格子等の危険度分布として補足情報を与える。
 - エ：役割が異なり併用が重要である。
- 総合解説：区域情報と地点周辺の危険度分布を組み合わせで避難判断に利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0120

5-4 気象災害・防災気象情報＞警報・特別警報・危険度分布（キキクル） | 難易度：応用

2026年新体系について最も適切な説明はどれか。

- ア．すべての警報名に必ずレベル1～5の数字が付く。
- イ．暴風警報は廃止された。
- ウ．大雪特別警報はレベル5大雪特別警報へ必ず改称された。
- エ．河川氾濫・大雨・土砂災害・高潮はレベル数字付き体系へ整理されたが、暴風警報・大雪警報・波浪警報などは同じ形式のレベル数字付き名称にはなっていない。

答え・解説

正答：エ

- ア：対象外の警報もある。
 - イ：現行でも存在する。
 - ウ：現行名称は大雪特別警報である。
 - エ：警戒レベルとの名称整合は主に避難情報と直接対応する4災害が対象である。
- 総合解説：新制度ではどの情報が警戒レベル数字付きかを正確に区別する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0121 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：基礎

週間天気予報の信頼度Aについて最も適切な説明はどれか。

- ア．3日目以降の降水の有無の予報について確度が高く、翌日の予報で変わる可能性も小さい。
- イ．降水量が必ず100mm以上になることを示す。
- ウ．気温予報だけの信頼度を示す。
- エ．予報が最も変わりやすい段階である。

答え・解説 正答：ア

ア：信頼度Aは、降水の有無の適中率が明日予報並みに高く、予報が変わりにくいことを示す。
イ：降水量ではなく予報の確度を示す。
ウ：主に降水の有無の予報の確度である。
エ：Aは最も確度が高い。
総合解説：信頼度は天気予報の内容そのものとは別に、その予報の確からしさを示す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0122 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：基礎

週間天気予報の信頼度Cの解釈として最も適切なものはどれか。

- ア．必ず雨になることを意味する。
- イ．降水の有無の適中率が低い、または翌日の予報で変わる可能性が比較的高い。
- ウ．予報が絶対に変わらない。
- エ．予報精度がAより高い。

答え・解説 正答：イ

ア：天気内容とは別である。
イ：信頼度Cは予報の不確実性が大きいことを示す。
ウ：むしろ変化しやすい場合がある。
エ：Aの方が高い。
総合解説：行事等ではCの日ほど最新予報を継続確認する価値が高い。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0123 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：基礎

降水確率80%で信頼度Cという予報の解釈として最も適切なものはどれか。

- ア．80%とCは矛盾するため発表できない。
- イ．信頼度Cなら降水確率は必ず30%以下である。
- ウ．現時点では降水の可能性を高く見積もっているが、その判断自体は変わる余地が比較的大きい。
- エ．降水確率と信頼度は同じ指標である。

答え・解説 正答：ウ

ア：異なる性質を表すので両立する。
イ：そのような関係ではない。
ウ：降水確率は現象の発生可能性、信頼度は予報の確からしさ・変わりにくさを表す。
エ：役割が異なる。
総合解説：確率と信頼度を分けて読むと予報の意思決定価値が高まる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0124 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：標準

台風の予報円を利用するとき最も適切な考え方はどれか。

- ア．予報円の外では影響が絶対でない。
- イ．予報円は台風の暴風域そのもの。
- ウ．中心線が必ず実際の進路になる。
- エ．中心線だけでなく、台風中心が入る可能性のある範囲全体を考えて影響を評価する。

答え・解説 正答：エ

ア：強風・雨域は円外にも及び得る。
イ：進路不確実性の範囲である。
ウ：不確実性がある。
エ：予報円は進路予測の不確実性を表すため、中心線を確定進路とみなしてはいけない。
総合解説：防災では進路だけでなく風雨・高潮等の影響範囲も別に評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0125 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：標準

複数のアンサンブルメンバーで低気圧進路がほぼ同じ場合、一般にどのように解釈するのが適切か。

- ア．メンバー間の内部的なばらつきは小さく、その進路シナリオの不確実性は比較的小さい。
- イ．必ず実況と完全一致する。
- ウ．ばらつきが小さいほど予報は無意味になる。
- エ．メンバーが一致すると確率予報は不可能になる。

答え・解説 正答：ア

ア：アンサンブルスプレッドは予測不確実性の一つの指標となる。
イ：共通のモデル誤差は残り得る。
ウ：一般に一貫性が高い。
エ：むしろ高い集中度を示す。
総合解説：小スプレッドでも絶対的な正確さを保証しない点に注意する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0126 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：標準

昨日の週間予報と今日の週間予報で5日後の天気が変わった。最も適切な受け止め方はどれか。

- ア．予報が変わった時点で気象予報は無価値である。
- イ．新しい観測・初期値を反映した結果であり、元々の予報不確実性が顕在化した可能性がある。
- ウ．最初の予報だけが常に正しい。
- エ．予報は一度発表したら変えてはいけない。

答え・解説 正答：イ

ア：更新は予報技術の正常な性質である。
イ：予報は最新観測に基づいて更新されるため、将来ほど変更の可能性がある。
ウ：最新情報を利用すべきである。
エ：新情報で更新される。
総合解説：利用者側も固定的に受け取らず、重要予定ほど更新を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0127 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：標準

重大な災害をもたらすシナリオの発生確率が20%と予測された場合、最も適切な考え方はどれか。

- ア．50%未満なら必ず無視する。
- イ．20%なら被害も20%に縮小する。
- ウ．確率が50%未満でも被害が極めて大きければ、事前対策を検討する価値がある。
- エ．確率予報は防災判断に使えない。

答え・解説 正答：ウ

ア：低確率でも重大影響なら重要である。
イ：確率と被害規模は別である。
ウ：意思決定では発生確率だけでなく影響度も重要である。
エ：リスク管理に有用である。
総合解説：防災では損失の大きさと対策コストも含めて判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0128 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：標準

気温予測範囲が前日より大きく広がった場合、一般に最も適切な解釈はどれか。

- ア．予報精度が必ず向上した。
- イ．最高気温が必ず範囲の上端になる。
- ウ．予測範囲の幅に意味はない。
- エ．予測される気温の不確実性が大きくなった可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：範囲拡大は不確実性増大を示すことが多い。
イ：中心予測とは別である。
ウ：不確実性情報として重要である。
エ：予測範囲は単一値では表せない予測幅を示す。
総合解説：点予報と区間予報を合わせて利用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0129 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：応用

アンサンブル予報が『低気圧が日本海を通る群』と『太平洋側を通る群』に明確に分かれている。平均進路だけを見る問題点はどれか。

- ア．実際にはほとんどのメンバーが通らない中間経路を代表予測のように示す可能性がある。
- イ．平均は必ず最頻シナリオになる。
- ウ．二峰性なら不確実性は0である。
- エ．個々のメンバーを見る必要はない。

答え・解説 正答：ア

- ア：分布が二峰性のとき平均値は主要シナリオを表さない場合がある。
 - イ：二峰性ではそうならないことがある。
 - ウ：複数シナリオが存在する。
 - エ：分布構造が重要である。
- 総合解説：平均・スプレッドだけでなくシナリオ群を確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0130 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報の不確実性・信頼度 | 難易度：応用

大雨の開始時刻に数時間の幅がある場合、最も適切な伝え方はどれか。

- ア．根拠なく18時00分ちょうどと断定する。
- イ．『夕方から夜のはじめ頃にかけて大雨となる可能性がある』など、時間幅と不確実性を明示する。
- ウ．不確実なので何も伝えない。
- エ．最も遅い時刻だけを伝える。

答え・解説 正答：イ

- ア：過度な精密表現は誤解を招く。
 - イ：技術的限界を超えて一点の時刻を断定せず、行動に必要な範囲を分かりやすく伝える。
 - ウ：幅を持たせて伝えるべきである。
 - エ：早期発生リスクを見落とす。
- 総合解説：予報用語には不確かさを一定のルールで表現する役割もある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0131 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：基礎

防災気象情報を利用する際の基本として最も適切なものはどれか。

- ア．情報名を覚えるだけで行動は不要。
- イ．危険度が高まってでも自治体から個別連絡が来るまで必ず待つ。
- ウ．情報の発表を知るだけでなく、自分の場所の災害リスクと避難行動に結びつける。
- エ．自分の場所の地形は考えなくてよい。

答え・解説 正答：ウ

- ア：防災行動へ結びつける必要がある。
 - イ：自ら判断することも重要である。
 - ウ：新体系は警戒レベルと住民行動を対応させることを重視している。
 - エ：ハザードの種類と場所が重要である。
- 総合解説：警報・キキクル・ハザードマップ等を組み合わせて具体的行動を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0132 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：基礎

航空機の安全運航に特に影響する気象現象の組合せとして最も適切なものはどれか。

- ア．海底地形と河川流量だけ。
- イ．気温だけで他の現象は無関係。
- ウ．天気は航空運航に影響しない。
- エ．雷、乱気流、霧、低い雲、雪、着氷、火山灰。

答え・解説 正答：エ

- ア：航空気象の主要要素ではない。
 - イ：多くの現象が運航に影響する。
 - ウ：重要な運航判断材料である。
 - エ：これらは離着陸や飛行経路、安全性に大きく影響する。
- 総合解説：航空気象情報は安全で効率的な運航を支援する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0133 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：基礎

鉄道や道路管理で大雨予測を利用する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．運休・通行規制・点検・要員配置などを事前に判断し、利用者と施設の安全を確保する。
- イ．気象情報は交通運用に使わない。
- ウ．雨量予測があれば施設点検は不要。
- エ．予報は災害後にだけ利用する。

答え・解説 正答：ア

ア：交通分野では予報の影響時間と場所を運用判断に結びつける。
イ：安全管理に重要である。
ウ：予測と現場確認を組み合わせる。
エ：事前対応に価値がある。
総合解説：影響ベースでリードタイムを活用することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0134 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：標準

沿岸では風が弱いが波浪予報で高いうねりが予想されている。船舶・海岸活動で最も適切な判断はどれか。

- ア．風が弱ければ波浪予報は無視してよい。
- イ．現地風が弱くても高波の危険はあるため、波浪情報を重視して航行・活動計画を見直す。
- ウ．波浪は船舶に影響しない。
- エ．高波は必ず高潮と同じ現象である。

答え・解説 正答：イ

ア：うねりによる高波がある。
イ：うねりは遠方から伝播するため、現地の風だけでは危険を判断できない。
ウ：安全運航に重要である。
エ：異なる現象である。
総合解説：海上・沿岸では風・波・潮位を別々に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0135 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：標準

農業で2週間気温予報や1か月予報を利用する例として最も適切なものはどれか。

ア．毎日の天気を数か月先まで確定する。
イ．気象情報を使うと農作物の生育条件を無視できる。
ウ．高温・低温リスクを見越して作業時期や栽培管理、防霜・高温対策などを調整する。
エ．農業では気温予報は利用価値がない。

答え・解説 正答：ウ

ア：季節予報は統計的傾向である。
イ：生育情報と組み合わせる。
ウ：気象庁は農業災害軽減や生産性向上のため気象・気候情報の活用を推進している。
エ：高温・低温影響が大きい。
総合解説：予報精度と対策コストを考慮し、実用的な意思決定へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0136 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：標準

小売業が2週間先の気温予測を活用する方法として最も適切なものはどれか。

ア．気温予報だけで全商品販売数が完全に決まるとみなす。
イ．予測情報は販売計画に利用できない。
ウ．過去の販売データは不要である。
エ．気温と販売量の過去関係を分析し、季節商品の仕入れ・在庫・販促計画を調整する。

答え・解説 正答：エ

ア：他要因もある。
イ：活用事例がある。
ウ：気温との関係分析に有用である。
エ：気候リスク管理では過去データと予測情報を業務データへ結びつける。
総合解説：産業利用では予報そのものより、事業指標との関係づけが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0137 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：標準

電力・エネルギー分野で季節予報を利用する主な目的として最も適切なものはどれか。

- ア．高温・低温に伴う冷暖房需要の変化を見込み、需給計画や設備運用に反映する。
- イ．季節予報で発電量・需要量が必ず一点に確定する。
- ウ．気温とエネルギー需要は完全に無関係である。
- エ．エネルギー分野では観測データを利用しない。

答え・解説 正答：ア

ア：気温はエネルギー需要と強い関係を持つため、気候リスク管理に利用できる。
イ：不確実性を考慮する必要がある。
ウ：一般に関係が強い。
エ：過去関係の分析に利用する。
総合解説：確率予報を複数需要シナリオへ変換する利用が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0138 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：標準

屋外イベントの5日前予報が雨・信頼度Cだった。最も適切な運営判断はどれか。

- ア．信頼度Cでも予報は絶対に変わらないので即確定する。
- イ．中止を即断するだけでなく、代替会場・延期基準を準備し、更新予報を確認しながら最終判断時刻を設定する。
- ウ．雨予報を完全に無視する。
- エ．予報更新を見ず当日まで何も準備しない。

答え・解説 正答：イ

ア：変更可能性が比較的大きい。
イ：信頼度が低い予報では柔軟な代替策と更新確認が有効である。
ウ：リスクとして準備する。
エ：事前対策が有効である。
総合解説：予報の不確実性を業務上の選択肢設計へ活用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0139 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：応用

台風による高潮が夜間に予想され、暴風はその数時間前から始まる見込みである。最も適切な避難計画はどれか。

- ア．最高潮位になってから避難を開始する。
- イ．高潮は海面だけの問題なので避難不要。
- ウ．暴風で屋外移動が困難になる前に、高潮浸水想定区域外など安全な場所への避難を完了する。
- エ．暴風が始まるまで情報を確認しない。

答え・解説 正答：ウ

- ア：暴風・浸水で移動困難になる恐れがある。
 - イ：沿岸浸水を引き起こす。
 - ウ：高潮は潮位ピークより先に暴風が始まることもあり、早期避難が重要である。
 - エ：リードタイムを失う。
- 総合解説：予報は現象発生時刻だけでなく、安全行動を終えるべき時刻から逆算して使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0140 5-5 予想の応用・情報提供 > 防災・交通・産業での利用 | 難易度：応用

ある対策は費用が小さい一方、現象が起きた場合の損失が非常に大きい。発生確率が30%のときの考え方として最も適切なものはどれか。

- ア．50%未満なら対策をしてはいけない。
- イ．30%なら損失も必ず30%になる。
- ウ．確率予報は業務判断に変換できない。
- エ．確率が50%未満でも、期待損失や対策費を比較して事前対策を実施する合理性があり得る。

答え・解説 正答：エ

- ア：一律の閾値では決められない。
 - イ：発生時損失の大きさは別である。
 - ウ：リスク管理に利用できる。
 - エ：確率情報の価値は、現象の影響と意思決定コストに依存する。
- 総合解説：利用者ごとに損失関数が異なるため、同じ予報でも最適行動は異なり得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0141 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：基礎

気象庁が予報用語を定める基本的な観点の組合せとして正しいものはどれか。

- ア．明確さ、平易さ、聞き取りやすさ、時代への適応。
- イ．専門性、難解さ、長文化、固定性。
- ウ．広告性、娯楽性、主観性、曖昧さ。
- エ．速さだけ。

答え・解説 正答：ア

ア：気象情報が多様な媒体で正確に伝わるよう、4つの観点で用語を整備している。
イ：公式方針と逆である。
ウ：予報用語の基準ではない。
エ：複数の観点がある。
総合解説：専門知識を正確かつ一般利用者に分かりやすく伝えることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0142 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：基礎

府県天気予報で用いる「一時」の定義として正しいものはどれか。

- ア．現象が断続的で合計時間が1/2未満。
- イ．現象が連続的に起こり、その発現期間が予報期間の1/4未満。
- ウ．予報期間の全時間にわたって続く。
- エ．必ず1時間だけ起こる。

答え・解説 正答：イ

ア：「時々」の定義である。
イ：気象庁は「一時」を連続現象かつ期間1/4未満と定義している。
ウ：「一時」ではない。
エ：固定時間ではなく予報期間に対する割合である。
総合解説：「一時」と「時々」は連続性と発現時間割合の両方で区別する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0143 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：基礎

府県天気予報で用いる「時々」の説明として正しいものはどれか。

- ア．連続的に起こり予報期間の1/4未満。
- イ．予報期間の後半だけに变化する。
- ウ．現象が断続的に起こり、その発現期間の合計が予報期間の1/2未満。
- エ．発現期間が必ず1/2以上。

答え・解説 正答：ウ

ア：「一時」である。
イ：「のち」の概念である。
ウ：切れ間がおよそ1時間以上ある断続現象に用いられる。
エ：「時々」の定義から外れる。
総合解説：同じ雨でも降り方の時間的連続性で表現が変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0144 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：標準

天気予報の「晴れのち曇り」が表すものとして最も適切なのはどれか。

- ア．晴れと曇りが断続的に交互に起こる。
- イ．曇りが連続的に短時間だけ起こる。
- ウ．晴れと曇りが同時に同じ比率で続く。
- エ．予報期間内の前半と後半で主体となる天気が晴れから曇りへ变化する。

答え・解説 正答：エ

ア：「時々」等の表現に近い。
イ：「一時」の意味に近い。
ウ：時間変化を表している。
エ：「のち」は予報期間内の前後で現象が異なる場合の変化を示す。
総合解説：予報文では時間変化を簡潔に表すための定型用語を使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0145 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：標準

気象庁が「よい天気」「悪い天気」といった表現の使用を控える主な理由はどれか。

ア．利用者や目的によって意味が変わり、具体的な気象状態が正確に伝わらないため。

イ．日本語として存在しないため。

ウ．天気にはよし悪しが法律で決まっているため。

エ．音声では発音できないため。

答え・解説 正答：ア

ア：農業や渇水時には雨が『よい天気』となることもあり、価値判断語は曖昧である。

イ：存在するが予報用語として不適切である。

ウ：そのような基準はない。

エ：意味の曖昧さが主因である。

総合解説：具体的に晴れ・雨・雪などを示す方が誤解を減らせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0146 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：標準

天気概況で「非常に強い風」と伝える際、気象庁が風速を明示することを重視する主な理由はどれか。

ア．風速値は意味がなく用語だけで十分だから。

イ．利用者が危険度を具体的に理解し、曖昧な印象だけで判断しないようにするため。

ウ．風速を示すと予報誤差が0になるから。

エ．全地域で同じ風速が吹くから。

答え・解説 正答：イ

ア：定量情報が重要である。

イ：「非常に強い風」には定義された風速範囲があり、数値併記で意味が明確になる。

ウ：精度とは別である。

エ：地点差がある。

総合解説：防災情報では定性的表現と定量情報を組み合わせると理解しやすい。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0147 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：標準

気象庁の降水確率0%について最も適切な説明はどれか。

- ア．雨滴が一滴も落ちないことを100%保証する。
- イ．降水量が必ず0.0mmになる意味だけ。
- ウ．1mm以上の降水確率が5%未満であることを表し、微量の降水まで絶対にないことを保証しない。
- エ．雲が全くないことを意味する。

答え・解説 正答：ウ

- ア：対象は1mm以上の降水である。
 - イ：確率表現である。
 - ウ：降水確率は1mm以上を対象に10%単位で発表される。
 - エ：雲量とは別である。
- 総合解説：確率0%という丸め表現を絶対不発生と誤解しないことが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0148 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：標準

一般向け防災解説で「850hPaの相当温位が高い」だけを伝えるより適切な表現はどれか。

- ア．専門用語を説明せずさらに略語だけにする。
- イ．根拠を全て省き『危険です』だけにする。
- ウ．専門用語を使うほど必ず正確に伝わる。
- エ．「南から暖かく湿った空気が流れ込み、大雨になりやすい状態です」のように影響へ翻訳して伝える。

答え・解説 正答：エ

- ア：一般利用者に伝わりにくい。
 - イ：何が危険か具体化する方がよい。
 - ウ：受け手に応じた平易さが必要である。
 - エ：専門指標は予報官には有用だが、一般利用者には現象と行動に結びつけた説明が分かりやすい。
- 総合解説：情報の受け手に応じて技術情報を意味・影響へ翻訳することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0149 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：応用

ラジオ等の音声で防災気象情報を伝える際に特に重要な配慮として最も適切なものはどれか。

- ア．聞き間違いにくい用語を使い、対象地域・現象・時刻・行動を簡潔に明示する。
- イ．専門略語をできるだけ多く使う。
- ウ．対象地域を省略して短くする。
- エ．重要情報を一度だけ高速で読む。

答え・解説 正答：ア

ア：予報用語は文字だけでなく音声伝達での聞き取りやすさも考慮して定められている。
イ：聞き取りにくくなる。
ウ：誰に向けた情報が不明になる。
エ：理解しやすさを損なう。
総合解説：媒体特性に合わせて同じ内容でも表現を調整する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05

0150 5-5 予想の応用・情報提供 > 予報用語・情報の伝達 | 難易度：応用

大雨になる確率が高いが降水帯の位置に幅がある場合、最も適切な情報提供はどれか。

- ア．最も可能性の高い1地点だけを確定情報として伝える。
- イ．位置の不確実性を明示したうえで、影響があり得る広い地域に早めの備えと最新情報確認を促す。
- ウ．不確実なら注意喚起を一切しない。
- エ．全地域で必ず同じ雨量になると伝える。

答え・解説 正答：イ

ア：位置ずれリスクを過小評価する。
イ：不確実性を隠して一点に断定するより、影響範囲と取るべき行動を併せて示す方が適切である。
ウ：行動に必要な範囲を示すべきである。
エ：局地差がある。
総合解説：予報の限界を伝えつつ、利用者が具体的に動ける情報へすることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-05